

の横で本種の合唱を聞き生息を確認した。そして、1976年7月22日には同校の生物部員が、東茶屋から加茂の方へ少し下がったあたり（標高約400メートル）の原生林で、雄を1頭採集した。筆者もその日同じ場所で、木の枝に着いていた脱皮殻を採集している。合唱から推察すると、淡路島内でもっとも多産する諭鶴羽山よりは少ないが、三態山よりは多いようであった。その後も数回同じ場所で本種の合唱を聞いているが、個体数はあまり多くないようである。

7. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* Walker

8月上旬から9月中旬にかけて出現し、各地に普通で平地にも山地にも多産する。人家の周辺にも多く、洲本市街地でもかなりの個体数が認められる。

8. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis* Motschulsky

7月中旬から9月上旬にかけて出現し、山地には普通であるが、個体数はあまり多くない。安乎町の北谷では、近年鳴き声を聞くことが多くなった。

9. チッチゼミ *Melampsalta radiator* Uhler

筆者は1940年代に、安乎町平安浦で本種の死骸を拾ったことがあるが、現在その標本は残っていないし、その後は生息を確認していない。

洲本市安乎町でクロコノマチョウを採集

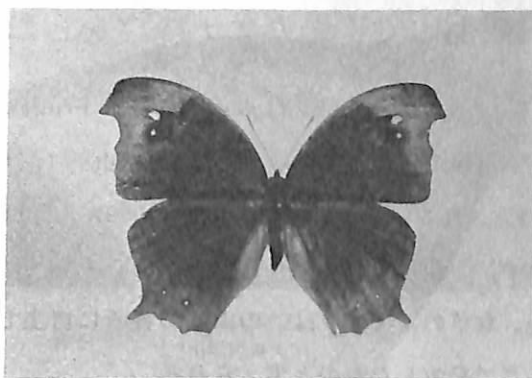
筆者は昨年夏、自宅の洗面所の窓ガラスに静止していたクロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura を採集したので、報告しておきたい。

採集年月日 1989年8月3日（夏型 1♀）

採集地 洲本市安乎町北谷

なお、本種はこれまでに淡路島では、洲本市相川、洲本市物部、南淡町灘大川、南淡町大日ダム、諭鶴羽山、五色町広石から記録されていた。

（堀田 久）



クロコノマチョウ 夏型♀
(洲本市安乎町北谷産)